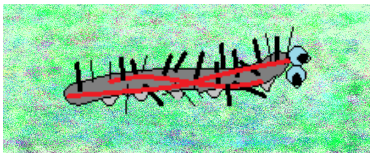

【月曜朝会の話６月④H270629】

みぢかにある「いのちのふしぎ」見つけようー２　（虫のひみつ）

お早うございます。６年生の元気な、気持ちのいいあいさつに、たくさんの人が応えて今週も始まりました。

先週は身近にあるいのち、虫の話をしました。虫も、体は小さいけれどもたったひとつの大事な命をもっている。だから、蝶や虫をさがすときには食べた後やウンチの様子で見つけることができるというような話をしました。

先週の約束で、今日はその第２回目。

先週は蝶の幼虫の話をしたので、今日は蛹の話から、いろいろなひみつをお話しします・・。

さて、一つ目の不思議。アゲハの蛹（さなぎ）には色が二種類あります。知っていますか。（２年生のあたりから緑と茶色という声が聞こえてきました。）

そう、よく知っていましたね。アゲハの蛹には緑と茶色があります。どうして２色あるのか知っていますか…。先週、アゲハの幼虫は鳥やそのほかの敵に見つからないように、小さい時はまるで鳥の糞のように黒と白のまだら模様。大きくなると、幼虫は辺りの植物の様子に合わせて緑色に変わるという話をしましたね・・・。

では、さなぎの色はどうしていろいろあるのでしょう（３年生や２年生のあたりから「春や夏は辺りに合わせて緑色、秋になると葉も枯れて秋の茶色…。」という声がまた聞こえてきました。）。そう、そうですね。アゲハ蝶やモンシロチョウは、春にも夏にも、そして秋にもチョウが現れて、卵を生んで、それが幼虫になって、そして蛹になって次の子たちにいのちを引き継ぐのです。ここで、やっぱり鳥等の敵に見つかってしまっては食べられてしまうので、目立たないように色を変えているのです。春は辺りと同じ緑、秋は辺りと同じ枯れ草の茶色。命をつなぎ生き残るための知恵ですね。

さて、二つ目の不思議、サナギがチョウになるときにはサナギが透き通ってきます。だから中の蝶の翅（はね）の色が透けて見えてきます。ようく見ていると分かります。こうなる、この子達はあと何時間かでチョウになります。普通、明け方はどんな生き物もまだ寝ていますから、だからチョウたちは、敵に襲われたり食べられたりしないように、明け方に羽化（サナギから蝶になること）してチョウになります。

緑だったり薄茶色だったりしたサナギが透き通って翅（はね）の色が見えてきます。クロアゲハなら黒、アゲハなら黒と黄色のだんだら模様になるのです。

三つ目の不思議、蛹からチョウになるときには必ずサナギのぬけ殻の下に色のついたおしっこの跡があります。どうして、チョウになるときにおしっこをするのでしょう…。

このおしっこのようなものには、チョウになるための大切な役目があるのです。

アゲハの幼虫は「いも虫」というように、とっても太っています。この幼虫がそのまま蛹になるので、やっぱりサナギも太っています。これはサナギになって、チョウになるまでしばらく動かなくなって何も食べなくても大丈夫なように、体の中に水分や養分を蓄えてあるのです。そして、サナギの殻がパカッと割れて出てきたチョウの赤ちゃんはまだお腹がまるまる太っています。このときまだアゲハの翅（はね）は折りたたまれて小さくなっています。チョウの翅（はね）はサナギの殻から出てきて洗濯物が広がるように乾かせば広がるわけではありません。よく見ていると、お腹をひくひくポンプのように動かしています。しばらくこうしていると翅（はね）が広がってきます。これは、お腹をポンプのように動かして、中の水を、翅の中にあるパイプに送り、まるで浮袋をふくらませるように翅（はね）を広げるのです。でも、このままでは翅の中のパイプに水が入りっぱなしで重くて飛べません。だから、またお腹をポンプのように動かして翅（はね）のパイプ中の水をお腹にみんな戻し、そしておしっこのように捨てて、体を軽くするのです。だからさなぎの殻の近くに必ずおしっこのような跡があるのです。

そのほかにも、生き物の不思議な様子は、たくさんあります。そして、生き物が自分の身を守るための不思議な様子は、この、桃五小の校庭でも、よぉくさがしてみると、きっと見つかるはずですよ。

こうやって虫などの小さな命たちは、毎年いのちを残し、子どもを残し、滅びてしまわないために、いろいろな秘密をもっているのです。皆さんのすぐ近く桃五の校庭で命の不思議な秘密、見つけてみてください。

お話、終わります。